

今の特集③

【酒造好適米の全体需給の推計】

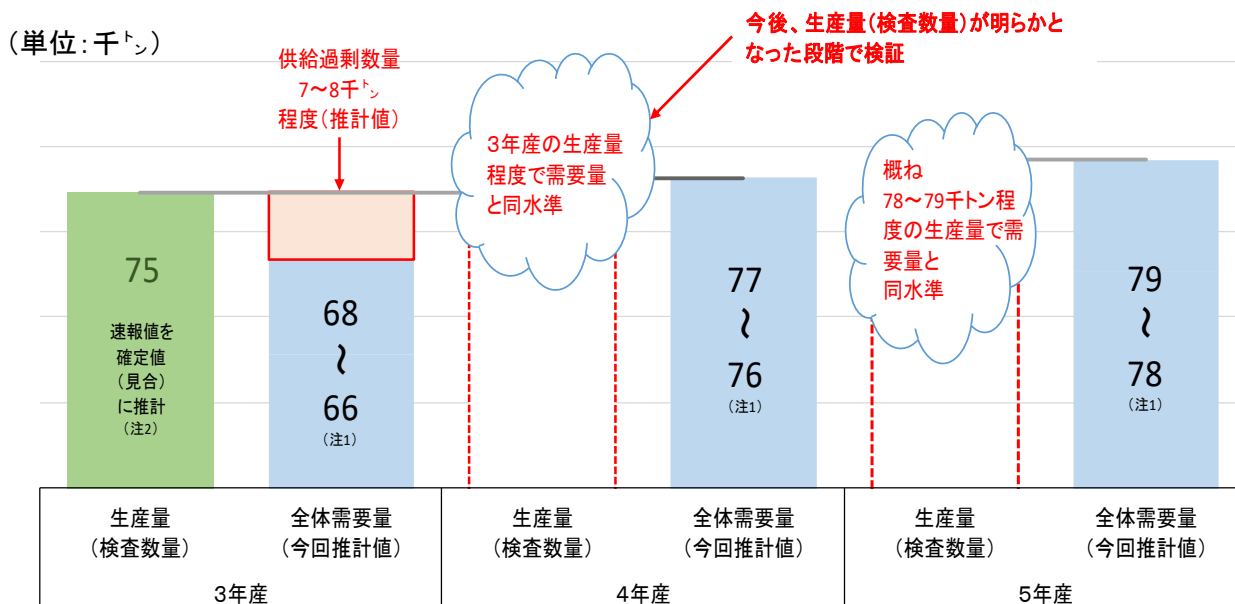
農林水産省が本年7月に行った「酒造好適米等の需要量調査」の結果をまとめました。概要は次ページ以下でご紹介しています。より詳細な調査結果の内容は、下記URLよりご参照ください。

また、令和4年9月29日に「日本酒原料米の安定取引に向けた情報交換会」を開催したところであり、その概要については、同URLに追って掲載します。

https://www.maff.go.jp/j/seisaku_tokatu/kikaku/sake.html

- ・ 令和3年産については、全体需要量（推計値）と生産量（検査数量）を比較すると、7～8千トン程度供給過剰となっていると推計されます。
- ・ 令和4年産については、全体需要量が令和3年産の生産量の+2千トン程度と増加しています。
- ・ 令和5年産については、全体需要量と同水準の生産量とするためには、78～79千トン程度の生産量とする必要があります。なお、在庫状況並びに令和4年産の生産及び需要動向によっては、令和5年産の生産量の調整が必要となることも考えられます。
- ・ なお、令和4年産の需給については、酒造好適米の検査数量（生産量）が概ね明らかとなる来年2月に検証し、3月号のマンスリーレポートでお知らせします。

酒造好適米(醸造用玄米)の全体需給の状況



酒造好適米の需要に応じた生産に向けて

- ・ 今後とも 日本酒の国内外での円滑な出荷・販売のためには、原料となる酒造好適米についても 需給均衡を図り、産地と実需者間で安定取引を図っていくことが重要です。
- ・ 令和5年産の酒造好適米の作付けにあたっては、今後のコロナ禍の影響や産地品種銘柄ごとの需要動向を踏まえ、需要に応じた生産・販売を行うほか、日本酒輸出の拡大といった新たな需要動向を踏まえ生産に取り組むことも重要です。このため、今後もさらなる生産者と実需者の相互協力、連携が求められます。

令和4年度酒造好適米等の需要量調査結果の概要

- ・ 昨年に引き続き、酒造好適米の需要量を把握するため、日本酒の酒造メーカーを対象として本年7月に需要量調査を実施。

調査の概要

	令和3年度	令和4年度
調査期間	令和3年7月	令和4年7月
調査対象メーカー数	1,396社	1,389社
回答酒造メーカー数	717社	694社
回答率(数量ベース)	81～82%	82～84%

酒造好適米の需要量調査結果

- ・ 今年度の酒造好適米等の需要量調査で回答のあった酒造メーカーの令和5年産酒造好適米の需要見込みは、合計で65千トと令和4年産に比べて3%増加するという結果になりました。
- ・ 令和4年産の需要量は、昨年度の需要量調査においては、令和3年産に比べて▲1%でしたが、今年度の需要量調査においては、令和3年産に比べて+14%であり、国内出荷量や輸出量の改善を見込んでいるのではないかと考えられます。
- ・ 令和5年産の生産にあっては、在庫状況並びに令和4年産の生産及び需要動向を踏まえ、生産者と実需者が連携し、令和5年産の作付計画に反映する必要があります。

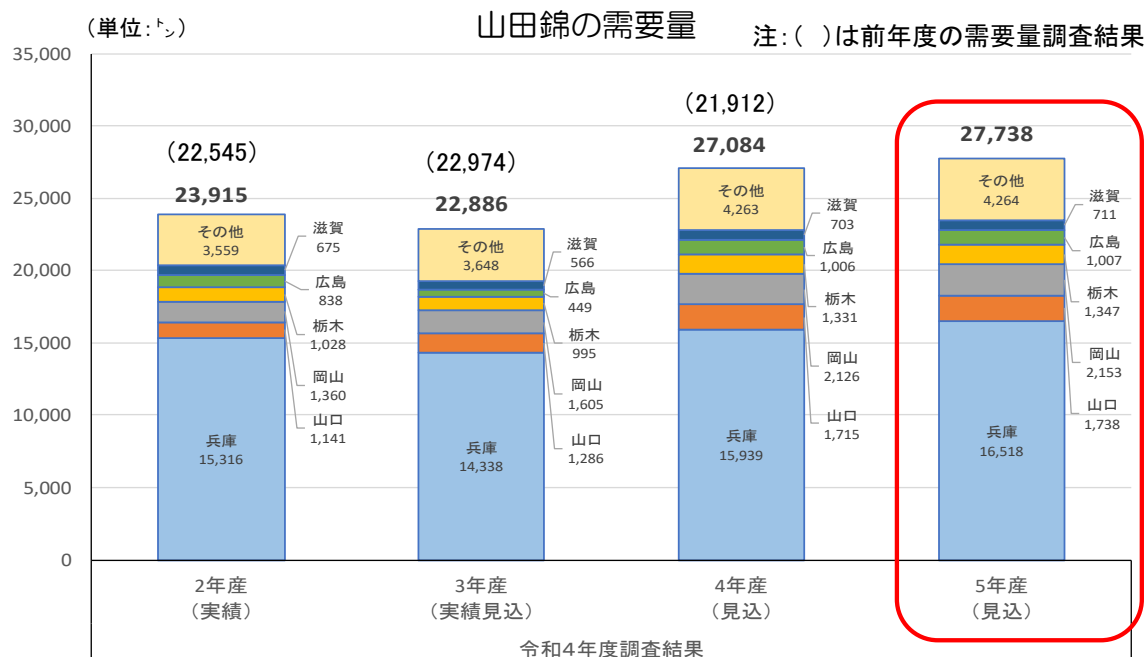
酒造好適米の需要量調査結果



主な酒造好適米の需要量(酒造メーカーからの回答分)

山田錦

- 令和5年産の山田錦の需要量は、令和4年産に比べて+2%増加しています。
- 令和4年産の山田錦の需要量は、昨年度の需要量調査においては、令和3年産に比べて▲5%でしたが、今年度の需要量調査においては、令和3年産に比べて+18%であり、国内出荷量や輸出量の改善を見込んでいるものと考えられます。

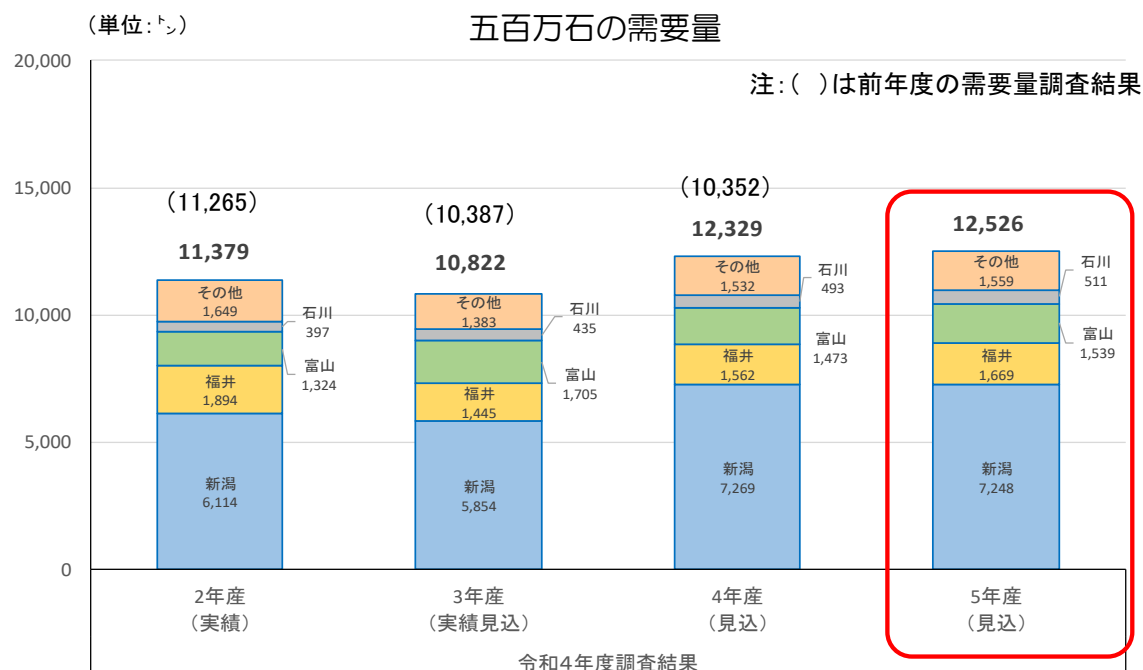


【参考】山田錦の生産量(検査数量)

28,342 (2年産) 27,400 (3年産(推計値))

五百万石

- 令和5年産の五百万石の需要量は、令和4年産に比べて+2%増加しています。
- 令和4年産の五百万石の需要量は、昨年度の需要量調査においては、令和3年産に比べて±0%と同程度でしたが、今年度の需要量調査においては、令和3年産に比べて+14%であり、国内出荷量や輸出量の改善を見込んでいるものと考えられます。



【参考】五百万石の生産量(検査数量)

17,561 (2年産) 13,729 (3年産(推計値))

日本酒の国内出荷状況

- 日本酒の国内出荷量については、近年、減少傾向で推移しているところですが、平成30年以降は減少幅が大きくなり、これまで堅調に推移していた特定名称酒についても減少に転じたところです。
- また、令和2年以降については、新型コロナウイルス感染症拡大の影響等により、業務用を中心に日本酒の国内出荷量が減少しており、特に酒造好適米を多く使用する特定名称酒が大幅に減少しています。

日本酒の国内出荷量の推移

(千kl)

	10年	15年	20年	25年	26年	27年	28年	29年	30年	元年	2年	3年	4年 (1~7月)	対前年同期比
日本酒国内出荷量	1,133	871	659	580	566	555	540	533	495	467	419	404	189	92%
特定名称酒	291	221	174	164	167	173	178	179	171	165	142	138	69	103%
吟醸酒	34	30	20	21	24	25	24	24	23	22	20	19	9	98%
純米吟醸酒	25	26	24	29	32	37	42	45	45	45	40	42	22	107%
純米酒	62	54	57	58	59	62	65	67	64	62	55	53	26	100%
本醸造酒	169	111	73	56	52	49	46	43	38	35	27	24	11	104%
一般酒	842	650	485	416	399	382	362	353	324	302	276	266	120	86%

資料：日本酒造組合中央会調べ。年は暦年。令和4年は概算値。また、令和4年については、京都府のデータが3月以降未集計となっている。

注1：清酒は、一般酒のほか、原料米及び製造方法などの諸条件（原料、精米歩留）により、吟醸酒、純米酒、本醸造酒等に分類され、これらを総称して「特定名称酒」という。一般酒は日本酒国内出荷量から特定名称酒の数量を差し引いて算出。

2：国内出荷量には輸出量は含まれていない。

日本酒の輸出状況

- 日本酒の国内出荷量が減少傾向にある中、輸出量については、海外での日本食ブーム等を背景に増加傾向で推移しており、令和2年は新型コロナウイルス感染症の世界的なまん延等の影響により減少したものの、令和3年には対前年比+47%と大幅に増加しました。
- 令和4年1~7月においても、輸出量は対前年同期比+18%と増加しています。

日本酒の輸出量の推移

(千kl)

	10年	15年	20年	25年	26年	27年	28年	29年	30年	元年	2年	3年	4年 (1~7月)	対前年同期比
日本酒輸出量	8	8	12	16	16	18	20	23	26	25	22	32	20.9	118%
アメリカ合衆国	1	2	4	4	4	5	5	6	6	6	5	9	5.8	128%
中華人民共和国	0	0	0	1	1	2	2	3	4	5	5	7	4.0	96%
香港	1	1	1	2	2	2	2	2	2	2	3	3	1.6	90%
台湾	4	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	3	1.7	112%
大韓民国	0	0	2	4	3	3	4	5	5	3	2	2	2.1	151%
その他	2	2	3	4	4	5	5	6	6	6	5	8	5.6	134%

資料：「貿易統計」（財務省）。年は暦年。

以上のほか、詳細な情報は、以下URLにより「日本酒をめぐる状況」及び「酒造好適米の需要量調査結果」を参照ください。

URL：https://www.maff.go.jp/j/seisaku_tokatu/kikaku/sake.html